

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：32408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02084

研究課題名(和文) 北朝鮮ドラマとジェンダーに関する基礎的研究

研究課題名(英文) Research on North Korean Dramas in light of Gender

研究代表者

山下 英愛 (YAMASHITA, YEONG-AE)

文教大学・文学部・教授

研究者番号：80536235

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：この研究では、北朝鮮のドラマとジェンダーについての基礎的な研究を行うことに注力した。成果は以下の通りである。

北朝鮮におけるテレビの導入過程に関する歴史を明らかにしようと試みた。また、北朝鮮におけるテレビドラマと映画の社会的機能や役割上の違いについて考察した。韓国における北朝鮮女性研究の歴史と特徴を整理した。さらに、ドラマや映画などの映像作品を使った既存研究を調べ、概要を把握した。収集したドラマと映画のうち、数本についてジェンダー分析を試みた。北朝鮮を含めて、コリアのジェンダーに関する研究を活性化するための研究会をスタートさせた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は以下の通りである。北朝鮮におけるドラマや映画は、人民を教化するための手段である。それらの映像を分析することで体制側の意図を読み取り、その変化を把握することができる。また映像を通して北朝鮮の人々の生活や習慣などもある程度理解することが可能である。日本における北朝鮮研究では人々の生活や習慣など文化に関する研究が手薄であった。本研究を通して多面的な理解を促すことができる。

研究成果の概要(英文)：This study focused on basic research on North Korean dramas and gender. The results are as follows.

First, I tried to clarify the history of the introduction process of television in North Korea. I also examined the differences in social functions and roles between TV dramas and movies in North Korea. Second, I summarized the history and characteristics of research on North Korean women in South Korea. I also studied previous research on TV dramas and movies to get an overview of the research. Thirdly, I tried to analyze the gender of some of the dramas and movies I have collected. Fourth, I started a study group on Korea including North Korea and gender in cooperation with several researchers.

研究分野：女性学

キーワード：北朝鮮 ドラマ 女性 テレビ ジェンダー 金正恩政権 国家家父長制

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本ではこの半世紀にわたってジェンダー研究が活発に行われるようになってきたが、東アジア地域の、とりわけ朝鮮半島の北側(朝鮮民主主義人民共和国:以下、北朝鮮)についての研究は無きに等しかった。筆者は朝鮮半島の南側である韓国社会のジェンダーに関する研究を行い、近年はその一環として、ドラマを通じた韓国社会のジェンダー分析を行ってきた。その過程で、家事と仕事の両立に悩む女性を描いた北朝鮮ドラマ/映画(「幸せの車輪」「わが隣人たち」など)の存在を知り、ドラマを通して北朝鮮社会のジェンダー分析ができるのではないかと考えた。折しも、2013年と翌14年に二度北朝鮮を訪問する機会を得、ドラマの脚本家に会うことができた。さらに数本のドラマ(映画を含む)のDVDを入手することもできたため、北朝鮮のドラマとジェンダーに関する資料や情報の収集を始めることにした。

(2) これまでの日本における北朝鮮研究の研究動向を調べ、主として政治や経済、安全保障をめぐるものが中心であること、北朝鮮の文化や生活、人びとに関する研究は非常に少ないことがわかった。また、2014年に開かれた国際シンポジウム「北朝鮮研究の新たな視座」(同志社コリア研究センター、立命館大学コリア研究センター主催)に討論者として参加したことをきっかけに、韓国など海外における北朝鮮研究の新たな潮流を知ることができた。とりわけ韓国において北朝鮮の生活や文化についての研究が活発に行われていること、北朝鮮女性に関する研究の存在もいくつかの文献を通して知るに至った。

(3) 日本において北朝鮮のドラマやジェンダー研究を行う場合、政治的事情により自由に現地に赴いて調査することが困難であるため、資料的な制約を伴う。だが、韓国の北韓資料センター等で映像を含めた一次資料を閲覧することができること、さらに、金正恩政権に入ってから以後、北朝鮮の映像類がネット上に公開され始めたことなどにより、映像を見るのが比較的容易になってきていた。

(4) そのため、もはや北朝鮮のドラマとジェンダーに関する研究を躊躇する理由はなく、むしろ積極的に行うことが日本における北朝鮮研究を深めることにもつながるのではないかと判断し、取り組むことにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、北朝鮮で制作・放映されたドラマを通して、北朝鮮社会のジェンダーを考察することである。ドラマには日常的な生活習慣や人びとの暮らしが描かれていることが多く、その社会のジェンダーを浮き彫りにしやすい。本研究では、インターネット等を通して北朝鮮のドラマ等映像を収集し、関連文献を調べてドラマ関連資料を整理する。ドラマ分析の基本となる北朝鮮社会の女性たちの生活やジェンダー史について、韓国や欧米で蓄積されてきた研究から学び、それらを整理する。時代別に特徴のあるドラマを選定してジェンダーを考察し、これらの成果を紹介する。この研究を通して、これまで空白だった日本における朝鮮半島北部のジェンダー史研究の端緒を開くことを目指す。

3. 研究の方法

本研究では次の3つの作業を行う。(1)北朝鮮のドラマなど映像の収集と基本的文献の収集・整理:インターネット、国内外の諸機関(日米韓の図書館、韓国の北韓資料センター、北米の大学等)への訪問を通して資料を収集し整理する。ドラマの整理と分析:収集した映像や文献を通してドラマ史を整理する。(2)北朝鮮のジェンダー及びドラマ(映画)に関連する既存研究の整理と考察:主に韓国における既存研究を収集し、女性研究とドラマ(映画)研究についてそれぞれ文献研究を行い、歴史的に考察する。(3)時代別に代表的なドラマ(映画)を数本選定し、歴史的背景及び当局の文化芸術政策や社会相を踏まえながらドラマのジェンダー分析を行う。

4. 研究成果

(1) 北朝鮮のドラマに関する基本的情報の整理

テレビの導入過程

北朝鮮におけるテレビドラマの歴史的変遷を考察するために、テレビ導入過程について文献研究をおこなった。テレビはラジオとともに20世紀を代表するメディアであるが、北朝鮮におけるテレビ放送の導入努力は、金日成の指示によって朝鮮戦争の復興期から始まり、1960年代初めに開局にたどり着いた。その後、全党的に「全国のテレビジョン化」が推し進められ、1970年代後半までにはインフラが整備された。テレビ放送の導入は、人々の文化水準の向上という理由以上に、金日成を中心とする唯一指導体制の確立と体制の宣伝扇動という目的によるものであったといえる。映画は映画館に出向いて見る必要があるが、テレビは家庭のお茶の間に置かれる。体制側の意図を汲んだ映画やドラマ作品を、テレビを通してよりダイレクトに伝達すること

ができるからである。後継者となる金正日は、テレビ放送のインフラ整備に当初からかわり、放送内容にも「ウリ式」を強調するなど、テレビ放送の基本的な枠組みと方向性に深く関与し、影響力を行使した。

テレビドラマについて

北朝鮮ドラマがいつから放映されるようになったのかについては明らかではない。韓国の研究によれば(ナム・ファスン 2003)、北朝鮮のテレビドラマは1982年から放映され、2003年には作品数が1000部を突破した。また、最初のテレビドラマは1982年の「彼を知るまで」であると指摘している。しかし、1973年に金正日がドラマの指導を直接行っていたことが北朝鮮の文献を通してわかった。それは「日雇い爺さん」(15部作)という作品である。ただ、この作品がテレビで放映されたのかどうか、また70年代にどのようなドラマが制作・放映されたのかについては明らかではない。

ドラマの種類など

北朝鮮では、ドラマの種類を、テレビジョン劇、テレビジョン連続劇、テレビジョン小説などと表現して区別している。テレビジョン芸術映画(テレビで放映するために制作した映画)という表現も使われている。また、通常の映画もテレビで放映されること、さらに映画の中には多部作が多く、テレビで見る限り連続ドラマとの区別がつきにくいものがある。その違いの根拠となるのは、制作主体がどこか(テレビドラマはテレビジョン劇創作社、映画は朝鮮芸術映画撮影所、朝鮮人民軍4.25芸術映画撮影所が代表的)撮影や表現技法の違いなどだが、視聴者の側からはわかりにくいと言えるだろう。金正恩政権下のここ数年間のテレビ番組表によれば、テレビで放映される量は、ドラマよりも映画の方が多し。新しく制作されたドラマと映画は、金正日政権時代に比べるとはるかに少なくなっているが、映像技術の進展がみられる。

(2) 北朝鮮のジェンダー及びドラマ(映画)に関連する既存研究の整理と考察

韓国における北朝鮮女性研究の歴史

北朝鮮のジェンダーに関する既存研究を整理するために、韓国における北朝鮮女性研究の歴史を文献研究によって跡付けた。韓国では1970年代から北朝鮮女性に関する研究が始まるが、女性研究としては李兌栄による研究を嚆矢とする。朝鮮戦争を経験した分断国家の一方の当事国として、北朝鮮は長らく“敵”として認識され、北朝鮮研究も当初は国家安保の要請から戦略的に行われた。その後、民主化や冷戦終結など、国内外の情勢変化を経て、統一の相手国である北朝鮮を理解するための研究となり、北朝鮮研究(北韓研究)が学術研究の一領域として位置づけられてきた。女性研究もそのような背景の中で行われるようになるが、その前提として重要だったのが、1980年代以降、活発化した女性学研究的な進展であった。北朝鮮女性研究は、女性学研究的な中心だった梨花女子大学校を中心に90年代から本格的に行われた。北朝鮮女性研究は他大学・研究機関でも行われているが、とりわけ梨花女子大学校が北韓/女性研究に熱心なのは、大学院に女性学科と北韓学科の両方があり、さらに統一学研究所があることが関係していよう。また、梨花女子大学校はキリスト教宣教師によって設立された教育機関が母体となっており、解放前は、平安道など北部のキリスト教が盛んな地域から女子学生が入学した(歴代総長にも北を故郷とする者が3人いる)ことなどが関係しているのかも知れない。2010年代以降、北朝鮮女性研究は、女性に関する研究という枠組みを超えて、北朝鮮社会に対するジェンダー研究としての視点や方法論を確立させつつあると言える。

韓国における北朝鮮ドラマのジェンダー分析

女性研究の一環として北朝鮮ドラマを分析した研究は1990年代後半から始まった。ただし、ドラマに限った研究は非常に少ない。むしろ映像作品としてドラマも映画も区別なく取り上げ、そこに描かれた女性像を分析する形の研究が多い。それは上述したように、ドラマも映画もテレビで放映されること、映画に多部作が多いこと、放映される量がドラマよりも映画の方が多しことなどが挙げられるだろう。また、女性研究やジェンダー研究で映像作品を取り上げる場合、ドラマに特化する意味が難しい面もあると思われる。そのため、映画を対象とするジェンダー研究が多く、その中にドラマも含んでいるケースがある。ドラマに特化したジェンダー研究は2010年代のカン・ミンジョンの研究(2013, 2015)などごくわずかである。映画のジェンダー研究は、2015年以降、安志映によって本格的に取り組みされている。

(3) ドラマ/映画のジェンダー分析

以上のような既存研究の傾向を踏まえつつ、筆者はいくつかのドラマと映画を選定して女性像の描き方やジェンダーの分析を試みた。

映画のジェンダー分析の試み

金日成、金正日、金正恩のそれぞれの時代の映画(「わが家の問題」(1973)、「バード」(1992)、「わが家の物語」(2016))を取り上げてジェンダー分析を試みた。「わが家の問題」は1970年代初めの幹部たちの汚職や腐敗をコメディタッチに描いた人気映画である。この第1作目は家庭の革命化をテーマとしたもので、主人公夫婦の姿を通して当時のジェンダーを読み取ることができる。女性の革命化は既存の女性役割(母親、妻)の上に労働者としての役割(家庭生活と組織生活)を徹底することであり(尹美良 1991)、夫の家庭役割は「笑い」の対象とされる。当時の社会主義憲法(1972.12)第62条は、男女に同じ社会的地位と権利を保障するとしていたが、女性には家庭内役割と社会的労働の二重負担を課していた。

「バード」は、朝鮮戦争で南北に離れ離れになった実在の鳥類学者の父子の実話をモチーフにして、南北離散家族の苦しみと、統一の重要さ、軍事境界線によって分断された地の環境保護の難しさをも描いたヒューマンストーリーである。映画の原作は北の作家リム・ジョンサンの短編小説「シベリアムクドリ」(1990)である。日朝合作映画(日本のCINEMABEEMが資金を出し、北朝鮮映画製作所が製作を担当した)という性格上、内容には日本のプロデューサーたちの意見も若干反映され、政治やイデオロギーよりも、人道的な側面に重点が置かれた。筆者は、小説と映画に描かれた跡継ぎナラティブと、統一をめぐる性役割の違い、映画の中での女性と男性の役割の違いについて分析した。

「わが家の物語」は、金正恩政権の青年強国政策を反映した人民教化のための映画である。映画のテーマは18歳の“未婚”の女性が3人の孤児の母親になるというもので、実話をもとにしている。孤児を育てる母親像は北朝鮮映画には幾度となく登場してきたモチーフだが、うら若い女性を「処女母さん」とすることで女性の母親役割を若者にまで拡大し、「わが家」は首領を頂点とする社会主義大家庭であるという国家家父長制的構造を子どもたちに教化する内容となっている。筆者は3つの側面(党/青年同盟の指導、ナショナリズム言説の強化、外見重視と女性性の強調)から分析し、金正恩政権の青年強国政策とジェンダー支配の構造について考察した。

金正恩政権下のドラマの特徴

金正恩政権に入って以後、映画の制作はそれほど活発とは言えないが、ドラマは毎年制作されている。2012年から2018年までの7年間に制作したドラマは13編、1話から14話構成のものまで様々である。総話数は72話であり、年平均10話程度を制作したことになる。ドラマのテーマは以下の4つに分けられる。

1) こどもや青少年をテーマとするもの:「待つ父」(全2話、2014)は、実在する幼稚園の園児を主人公にして、芸術の英才教育の様子を描く。主人公の園児はピアノに秀でた才能をもつが、地方で働く父親に会いたくて仕方がない。そんな主人公の思いを変える出来事(金正恩元帥が自分の通う幼稚園に視察に訪れた)が起こり、それをきっかけに練習に励んで国際コンクールで優勝し、金正恩元帥の恩恵に報いるという物語である。実父への思いよりも金正恩という国父への思いの方が価値の高いものであるというメッセージがある。

2) シットコム:「わが隣人たち」(全2話、2013)は平壤の高層アパートのエレベーター運転工の女性を主人公にして、夫の間の葛藤をアパートの住民たちとともに解決する物語である。人々の日常生活をコミカルに描いている。

3) 鉱山や農村を舞台に、体制への忠誠をテーマとしたもの:「自己を捧げよ」(2012)/「表彰」(2015)/「北方の夕焼け」(2017)など。「北方の夕焼け」は慈江道の3月5日青年鉱山(金正日が「強盛大国の理想村」であるとした)の現代化を背景に、4人の若者たちが仕事と恋愛に悩む姿を描いている。職場や日常生活における中年女性たちが生き生きと描かれているのが特徴的である。夜の遊園地、夜景、人民大学習堂、金策工業総合大学、鉱山の施設、村、水泳場、遊園地など、視聴者に「見せる」場面が描かれている。

4) 歴史ドラマ:「桂月香」(2011~12)/「壬辰年のイムマニたち」(2018)/「防弾壁」(2015)など。解放直前の時期を描いた「防弾壁」以外は朝鮮王朝時代の時代劇である。

以上のように、金正恩政権下のテレビドラマは多彩な内容のものが制作されている。とりわけ政権初期には、子どもたちを主人公にしたものが目立つ。ドラマの基本的なテーマは指導者への忠誠心を発揚させるものであり、従来と変わりがない。ドラマの映像や演出など技術面で視聴者を引き付ける工夫を行っていることが確認できる。ドラマに描かれるジェンダーは定型的なものが多く、国家家父長制的構造をジェンダー役割によって支えていることがうかがえる。2019年以降は新しい作品を制作しておらず、テレビでは2018年までに制作されたものを繰り返し再放送している。

(4) K-Gender 研究会(仮)の立ち上げ

2020年度のジェンダー史学会大会でパネル報告を企画し、そのメンバーたちとともに、コリアとジェンダーをキーワードにした研究会を立ち上げることができた。コリアとジェンダーに関連して様々な研究に取り組む人々が集まり、研究ネットワークを築くことで、研究の促進と深化につなげることができると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山下英愛	4. 巻 32号
2. 論文標題 北朝鮮のテレビ放送導入に関する一考察－インフラの形成とコンテンツを中心に－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語と文化	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 YEONG-AE YAMASHITA	4. 巻 Vol.27
2. 論文標題 A Gender-Based Analysis of the Translation of South Korean TV Dramas in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diverse Voices in Translation Studies in East Asia (New Trends in Translation Studies)	6. 最初と最後の頁 149-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下英愛	4. 巻 第62号
2. 論文標題 ドラマ「魔女の法廷」（KBS2017）と韓国の#MeToo運動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジェンダ	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下英愛	4. 巻 第17号
2. 論文標題 韓国における北朝鮮女性研究－共生の道を模索するために－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジェンダー史学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 韓国ドラマの魅力に迫る～面白さ再発見～
3. 学会等名 豊島区男女平等推進センター（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 北朝鮮女性の生活に関する研究～韓国における先行研究を中心に～
3. 学会等名 ジェンダー史学会 第16回年次大会自由論題研究発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 北朝鮮コメディ映画「わが家の問題」（1973年）をめぐって～作家李熙燦（リ・ヒチャン）の一周忌にちなんで～
3. 学会等名 朝鮮文化研究会 第25回講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 ドラマを通して考える最近の韓国社会～教育熱、#MeToo、北朝鮮など
3. 学会等名 立命館土曜講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 ドラマから見る韓国社会ー 韓国ドラマの面白さ～「妻の資格」を中心に～
3. 学会等名 チェッコリ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 ドラマから見る韓国社会ー 「魔女の法廷」と韓国の#MeToo運動
3. 学会等名 チェッコリ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 ドラマから見る韓国社会ー ドラマで見る北朝鮮の人々
3. 学会等名 チェッコリ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 ドラマから見える北朝鮮の人びとの生活
3. 学会等名 朝鮮文化研究会 第20回講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 ドラマから見る韓国社会－特別編：北朝鮮のTVドラマ～「待つ父」（2014）に見る幼児英才教育
3. 学会等名 チェッコリ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 北朝鮮映画『わが家の物語』（2016）にみる家父長制国家とジェンダー
3. 学会等名 ジェンダー史学会 第17回年次大会自由論題パネルD
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下英愛
2. 発表標題 韓国の脈絡で読み解く”キム・ジヨン”
3. 学会等名 エポック10ミニフェスタ2020
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------